

教師の ICT 活用指導能力について

Teacher's Ability of ICT Instruction

本田敏明^{*1}, 西村佳葉^{*2}, 樋野雄介^{*2}, 大曾根伊織^{*2}

Toshiaki HONDA^{*1}, Kana NISHIMURA^{*2}, Yusuke HINO^{*2}, Iori OSONE^{*2}

^{*1} 茨城大学教育学部

^{*1} Faculty of Education, IBARAKI University

^{*2} 茨城大学教育学部生

^{*2} Faculty of Education, IBARAKI University

^{*1} Email: toshiaki.honda.530@vc.ibaraki.ac.jp

^{*2} Email: 14p5021h@vc.ibaraki.ac.jp

14p5116x@vc.ibaraki.ac.jp

14p5205a@vc.ibaraki.ac.jp

あらまし：教師の児童・生徒への ICT 活用指導能力の育成のために必要な支援方策を，グラウンデッド・セオリー・アプローチ（GTA）によって分析し，それをもとに信頼性のある支援システムにまで構築するための方策を明らかにする．その際，ICT 活用能力の育成にとって教師が取るべき行動指針を「U 曲線モデル」に基いて明らかにする．

キーワード：GTA，ICT 活用指導能力，U 理論

1. はじめに

教師の ICT 活用指導能力はすべての教師の必須能力とされながら，その育成方法について個々の教師の多様性を前提とした育成方法についてはこれまで必ずしも明らかにされてはいない．

我々はこれまでグラウンデッド・セオリー・アプローチ（GTA）に基づく質的研究によって教師の ICT 活用指導能力育成の促進・阻害要因について一般的に明らかにしてきた．

そこで本発表では，さらに個々の教師が持つ様々な属性を考慮した育成プログラムの可能性について提案したい．

2. これまでの研究経過

2.1 グラウンデッド・セオリー・アプローチ(GTA)とは

GTA とは，A.トラウス，B. グレーザーによって創出された質的調査の方法である．ここでは，ある概念を明らかにするのに，その概念に内包するカテゴリー，あるいはクラスを抽出し，それぞれのカテゴリーの特性を構造的側面やプロセス的側面などから階層化，関連づけを行いそこから仮説を導き出し，最終的に理論化していくという手順を取る．

2.2 優秀教師の指導力転移の可能性について

これまでの研究では，ICT 指導力に関する要素と，1 人の ICT 指導力とは無関係の優秀教師に関する要素について，GTA の手法で解析し，それらと比較して指導力の転移の可能性を考察した．その結果，優秀教師の指導力と ICT 指導力との間には転移を疎外・促進する要因があり，それには差があることが明らかになった⁽¹⁾．しかし，その差をどう埋めるのかについてはその後の課題であった．

そこで本発表では，その解決方法を明らかにしつつ，これまでのデータの蓄積とコーディング，ラベル化に基づいて，ICT 活用指導能力の育成について教師が取るべき行動指針を U 理論に基づいた「U 曲線モデル」を用いて実施することを提案したい．

3. 教師が取るべき行動指針について

3.1 U 理論について

U 理論とは，オットー・シャーマーによって創出された理論で，過去や偏見にとらわれず，今現れようとしている未来から学習して，新たな変革を生み出す方法を説いたものである．その考えには基本的な 7 つの行動ステップがあり，そこから「U 曲線モデル」が編成される．

また、U字の左側のステップの間にはそれぞれに壁があり、それを超えるには3つの声（評価・判断の声、皮肉・諦めの声、恐怖の声）と向き合う必要があるとされる。以下にU理論の図を引用する（図1）⁽²⁾。

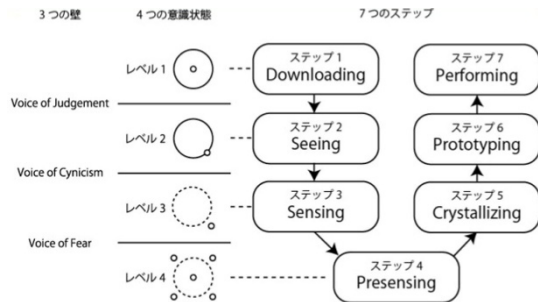


図1 U理論の図

3.2 教師を構成する要素

我々はまず、ブレインストーミングを行い、教師を構成する要素について案を出した。要素は、年齢、性別、勤務している学校のICT設備の充実、ICTの知識などが挙げられた。これらの要素は大きく4つのグループに分類できると考え、「教員のプロフィール」「ICTのスキル」「個人のICT利用」「教師を取り巻く学校環境」に大別した（図2）。

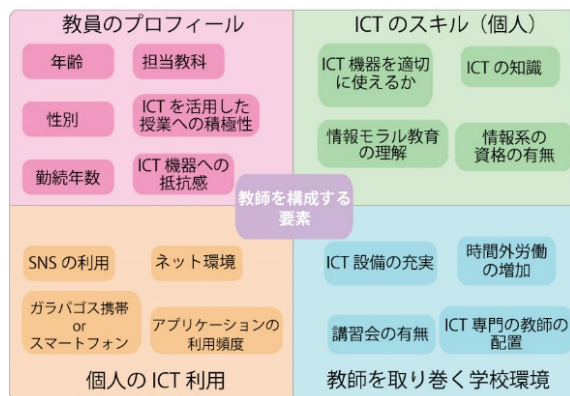


図2 教師をモデル化する際に用いる要素

3.3 教師のモデル化

教師を構成する要素により、ICT活用指導能力の育成を促進する要因や阻害する要因が異なると考えた。そこで、いくつかの要素を抜き出し、それによって教師をモデル化する。そして、その教師のICT活用指導能力の育成を阻害する要因を明らかにした。

3.4 教師の取るべき行動指針

教師の取るべき行動指針は、それぞれの抱える阻害要因によって異なることがわかった。例えば、近年ICT設備を活用するための講習会が多く開かれるようになり、教師のICT活用指導能力の育成を目指していると考えられる。しかし、その内容は教師のICT活用指導能力に関わらず一律である。よって、高い能力を持つ教師にとっては自分のレベルに合わない講習会への参加により、その後の参加意欲が減少し、ICT活用指導能力の育成が阻害される要因になることがある。このように、促進要因になりうるものが阻害要因になることがある。そこで、教師を構成する要素をもとにモデルを作成し、U理論を用いてそれぞれに適した行動指針を提案したい。

参考文献

- (1) 本田敏明, 赤間文香, 宇井みずき, 海野詩央里, 佐々木雅実, 會澤瑞季: “教師の児童・生徒へのICT活用指導能力について: 指導力転移の可能性について”, 日本情報科教育学会誌, Vol8, No. 1, 2015, pp. 25-33.
- (2) KJ法のW型問題解決モデルとU理論, それぞれの問題意識 加筆版
<https://www.slideshare.net/mobile/nishio/kjwu>